

(別紙様式)

令和6年度学校評価の実施状況等調査

学校名	県立コザ高等学校定時制課程
記載者名	宮城 広行

1 自己評価を実施した人数

	校長	教頭	事務長	教諭	事務	その他	計
実施人数	1	1	1	11	1	1	16

※その他 ()

2 学校関係者評価を実施した人数

	学校評議員	PTA役員	その他				計
実施人数	4	0	0				4

※その他 ()

3 外部アンケート等を実施した人数

	保護者	生徒	その他				計
実施人数	64	67	0				131

※その他 ()

4 学校評価結果の公表方法等(該当項目に○、複数回答可)

自己評価	①ホームページ	②学校便り	③保護者への説明会	④その他(PTA総会での説明)
学校関係者評価	①ホームページ	②学校便り	③保護者への説明会	④その他(PTA総会での説明)

5 令和5年度の学校評価を踏まえ、令和6年度改善した点 (いじめ問題に関すること等)

①基礎学力の向上、進路決定率の向上、生徒との信頼関係の構築が改善された【職員】
②普段の学校生活の中で教師からの声かけが良くなった【生徒】
③子どもが積極的に部活動等の特別活動に積極的に参加するようになった【保護者】
④休学や授業登録、校納金等について学校と家庭の連携が密になったと考えている【保護者】
⑤”いじめ”について学校は早期対応していると考えている生徒が多い【いじめ】

6 令和6年度の学校評価で明らかになった課題

①基本的な生活習慣の更なる確立、中途退学対策指導の充実について課題がある【職員】
②部活動の参加について、参加している生徒からは充実していると回答されているが、参加していない生徒からは、活性化されていないとの回答が多い。加入率を増やす必要がある。
④子どもが自身の課題解決に向けて主体的に取り組んでいるとはいえない、と感じている保護者が2割ほどいる【保護者】

7 令和6年度の学校評価を活かした令和7年度の改善点

①基本的な生活習慣の確立と中途退学対策の課題が挙げられている。中退加配が無くなったが、全職員で、それを担っていく組織作りが必要である。
②”いじめ”や”人権”に関しては概ね良い評価となっている。日々の声かけやいじめ事案への早期対応は評価されているため、今後とも続けていく必要がある。
⑤日々の学校の取組等を保護者へ伝える手立て(ツール)の構築が必要である。